

2025年7月16日

## 大分県厚生連鶴見病院の循環器内科において 入院のうえ心不全の検査および治療を受けた患者さん・ご家族の皆様へ

### 【研究課題名】

心不全患者における血清ナトリウム値の検討と塩分摂取量の意義に関する研究

### 【研究の対象】

2024年4月から2025年3月に大分県厚生連鶴見病院（以下、当院とする）の循環器内科に入院され心不全の検査および治療を受けられた方を研究対象としています。

### 【研究の背景・目的】

心不全（HF: Heart Failure）患者さんにおける血清ナトリウム濃度は予後因子の一つであり、特に低ナトリウム血症は死亡率の上昇と関連しています。一方で、塩分摂取量の制限は心不全管理において重要とされてきましたが、近年その過度な制限による栄養状態や腎機能への影響も議論されています。

本研究では、心不全患者における血清ナトリウム値と塩分摂取量との関連性を明らかにし、さらに利尿薬使用や腎機能との関係を含めて検討することを目的とします。

### 【意義】

本研究により、心不全患者における血清Naと塩分摂取量の関連性を明らかにすることで、個別化された栄養管理・利尿薬調整の可能性が示唆され、より適切な心不全管理戦略への貢献が期待されると考えております。

### 【研究の方法・期間】

方法は、対象患者さんの臨床情報（年齢、性別、身長、体重、BMI、心不全のNYHA分類、入院歴、併存疾患、血清Na、K、eGFR、BNP、proBNP、利尿薬の種類、1日あたりの食塩摂取量、輸液中のNa量、転帰）を医療記録より収集し、血清Naと塩分摂取量の関連性を検討します。

研究期間は、当院における臨床研究倫理審査委員会の承認日より令和12年7月31日とします。

#### 【個人情報に関する配慮・臨床情報の保存について】

患者さんの試料および臨床情報は、国の定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従い、連結匿名化を行い、対応表は鍵のかかる庫で保管します。得られた結果は、学会や医学雑誌に発表することとなりますが、研究結果を公表する際は、個人が特定できないようプライバシーに配慮致します。

本研究終了後は、試料は焼却処分し、臨床情報については、シュレッターにて廃棄し、パソコンなどに保存している電子データは復元できないように完全に削除致します。ただし、研究の進展によってさらなる研究の必要性が生じた場合は、それぞれの保存期間を超えて保存させていただきます。

#### 【研究責任者】

大分県厚生連鶴見病院 医療技術部薬剤科 科長 北英士

#### 【共同研究者】

大分県厚生連鶴見病院 医療技術部食事療養科 科長 佐藤和美

大分県厚生連鶴見病院 医療技術部食事療養科 管理栄養士 大村亜有子

大分県厚生連鶴見病院 医療技術部食事療養科 管理栄養士 石田麻衣子

大分県厚生連鶴見病院 医療技術部食事療養科 管理栄養士 小野花梨

#### 【研究支援者】

大分県厚生連鶴見病院 副院長 財前博文

#### 【患者さんの利益と不利益】

この研究は、当院における臨床実地医療の結果を調べる後ろ向き観察研究であり、本研究に参加することによる患者さんの利益、不利益はとまございませぬ。

研究の趣旨をご理解頂き、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の臨床情報等を研究目的に利用してほしくない場合は主治医もしくは以下の連絡先までご連絡下さい。

#### 【お問い合わせ先】

〒874-8585 大分県別府市緑丘町12番1号

大分県厚生連鶴見病院 薬剤科 北英士

電話番号：0570-06-7111